

いつもの便座で排泄しやすく！



Point!!

普段の便座（既製品）を
セットすることで、
段ボールトイレでありながら
一般的な洋式トイレに近い
座り心地を追求しました。

意匠登録出願中

さきちゃんの防災トイレ



コンパクト
収納



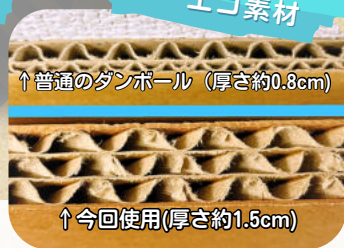
折りたたんで収納が可能。
貴重な備蓄スペースを圧迫せず
保管して頂けます。

道具不要！
かんたん組み立て
& スピード設置



くると巻いて差し込むだけ！
4つのメインパーツで完結。
プラ便座は手回しのネジで
しっかりと固定可能です。
(詳しい手順はHPにて)

軽くて強い
エコ素材



↑普通のダンボール（厚さ約0.8cm）

↑今回使用（厚さ約1.5cm）

一般には出回らない三層構造の
強化ダンボールを採用。
頑丈で座っても安定感があり、
軽いので自由な設置と移動が可能
です。

使いやすい
中蓋構造



浅めの位置に底があるため便袋が
セットしやすく、使用時には袋が
排泄物の重さで落ち込むことを防
ぎます。

レンタルOK

ご希望の場合はホームページから貸出も可能です。
防災対策会議や訓練などにお役立て下さい。

- ※数には限りがございます。
- ※行政・団体・企業の方のみとさせていただきます。
- ※体験に関するアンケートにご協力をお願いいたします。

開発理由

2024年の能登半島地震では、便器から排泄物が溢れると
いった問題が深刻化し、多くの避難所で携帯トイレ・簡易
トイレが活用されました。
これらトイレの備蓄が必要不可欠であることはもちろん、
健康維持のために、ストレスなく適切に排泄できる環境
について考える必要があります。

そのため、私たち山崎梱包は、普段の業務で取り扱って
いる段ボールの高いポテンシャルを活かし、ストレス
フリーな使い心地の実現に向けて開発に取り組みました。
ぜひ、新感覚の簡易トイレ「さきちゃんの防災トイレ」を
皆さまにご体験頂き、備蓄の選択肢のひとつとして考えて
頂きますと幸いです。

WEB&SNS



商品紹介ページ



INSTAGRAM



災害時の健康維持は、安心できるトイレ環境から

「災害時の健康維持」と聞いて、何を思い浮かべますか？

「食事をきちんと摂る」「しっかりと眠る」「体を動かす」「常備薬を切らさないようにする」

どれも欠かせないことですが、健康面において1、2を争うほど大切なことは「トイレにきちんと行ける」ことです。

■トイレにきちんと行けないと…

「**飲食を控える**」「**眠れない**」「**動かたくなる**」「**薬を飲むための水にも気を遣う**」

上記のどれも達成できなくなってしまいます。

食事よりも睡眠よりも、何よりも我慢できないのが排泄です。

ただでさえ災害への不安、生活環境の変化に心がついていけない中ですので、

トイレに不安を抱く環境は個人の尊厳に関わり、体だけではなく、心の健康も損ねてしまいます。



まずは3日間、トイレピンチに備える

災害発生時には50人に1基のトイレが必要と言われており、1日5回トイレに行くとすれば、3日間では1人あたり15回、100人いるとすれば1500回分のトイレに対応する必要があります。**しかし、発災から3日間は人命救助活動が優先されることもあり、救援品はすぐには届きません。**

仮設トイレが3日以内に設置された避難所は、能登半島地震においては10%、東日本大震災では34%でした。また、仮設トイレの8割以上は和式であったため、高齢者が転倒する事故も発生しました。

初動に備え、簡易・携帯トイレの確保が非常に大切です。

断水や上下水道施設の被災

・水洗トイレが利用不可に



■トイレ環境の悪化■

・個数が少ない ・プライバシーがない
・汚れや悪臭がある ・暗い ・寒い
・足腰に負担がかかる（和式、段差など）



・トイレに行きたくないため飲食を減らす
・体力・免疫力の低下、体調不良、持病の悪化
・健康被害、災害関連死へ繋がる危険性



さきちゃんのトイレ、どう役に立つ？

サイズが小さい・座り心地が悪い、強度が心配…

従来の段ボールトイレで排泄しづらさの原因となる要素を解決しました。



3つの安心！

※詳しくは商品ページもご覧ください



1 樹脂製便座 -「いつも」の座り心地に-

もしもの時、水洗でない緊急用トイレに排泄するだけでも大きなストレスに。便座の座り心地だけでも良いものにできないか？と思い、市販の樹脂製（プラスチック）便座をセットしました。

全て段ボール製のものや座面が小さいものよりも、しっかりとした慣れた形の便座に座ることにより、

・心理的にホッとできる、安心する
・いつもの排泄感覚を取り戻すなどの効果が期待できます。

2 立ち座りをスムーズに！

昨今の便座の高さは、バリアフリートイレの基準も踏まえると、40cm前後の高さが主流となるようです。

さきちゃんの防災トイレは、さらに緊急時は靴を履いたままである場合も想定し、少し高め約42cmで設計しました。

足腰が弱く、立ち上がりに不安がある方にも安心してご利用頂けます。



3 強化段ボールで耐久性◎

段ボール=壊れやすそう…といったイメージの方も多いかもかもしれません。しかし、種類によっては1トンの重量にも耐えられる硬さと強度があります。

さきちゃんの防災トイレは、流通している段ボールの中でも最も丈夫な部類に入る、三層構造の強化段ボールを使用し、強度を高めています。

厚みにより重心も安定しているので、座っても大丈夫かな？といった心配を払拭できます。

能登半島地震におけるトイレ実例から学ぶ

携帯トイレ（便袋や凝固剤）は能登半島地震の避難所のうち9割で使用されたが…

■初めての人が多く、使い方が判らず汚してしまった・排泄がスムーズにできなかった

■中でも高齢者が苦慮、「慣れておくことは必要だ」と答えた現場の声は多い

避難所の他、医療施設などにも病床数に対して数倍もの人数の避難者が集まった

■トイレが足りなくなり汚物が溢れ、スタッフによる度重なる清掃が行われる

！使用方法の周知は重要な課題です。

さきちゃんのトイレは、BCP対策会議や防災訓練にもお使い頂けます！



！トイレ不足防止策の検討

急な災害による人員増加のケースです。帰宅困難者や一時避難者などにより、既存の便座のみでは不足する場合があります。